

新型コロナウイルス感染症が広がる中であらためて糖尿病に向き合う

糖尿病とは？原因は？

食事を食べると、食物が腸管で吸収されて血液中のブドウ糖濃度（血糖値）が上がります。エネルギー源のブドウ糖はインスリンのはたらきで吸収されて、血糖値は徐々に元に戻ります。糖尿病は、インスリンの効果が不足するために、糖・脂質・たんぱく質などの代謝が乱れる病気です。糖尿病の発症の原因には、遺伝と環境の両者が関わるため、家族内に糖尿病の発症が多く、肥満・運動不足・過食などの環境因子が関わります。

合併症の怖さ

糖尿病の怖さは、ほとんど自覚症状がないために長期間放置されることです。糖尿病は血管の病気で合併症が問題です。神経障害では、足の裏がジンジン感じてしびれや立ちくらみなどが起こります。網膜症は、ゆっくりと持続的に進行して、網膜出血・黄斑浮腫・緑内障など失明につながる危険があります。腎症は、アルブミン尿・たんぱく尿が出て、末期腎不全へ進行して透析導入となる最も多い原因です。この5月以降に、大学を含む全国初の連携協定（本学－大分県医師会－大分県）に基づき「糖尿病性腎症重症化予防専門外来」を私たちの講座医師を中心に、専門医（※）・看護師・管理栄養士・薬剤師による検査や、指導とかかりつけ医の先生方への支援により、大分県民の透析導入者を減らす取り組みを始めました。

※糖尿病専門医（日本糖尿病学会）、内分泌代謝科専門医（日本内分泌学会）、腎臓専門医（日本腎臓学会）

生活面での注意点

糖尿病の治療目標は、健康な人と変わらない生活の質と寿命を確保することで、食事と運動は治療の両輪です。今は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大で国民全員が自粛生活を求められています。「ステイホーム」を続けていると、運動不足・過食・不規則な生活・睡眠不足になりやすく、服薬も滞りがちになり、体重が増え、血圧や血糖値が高くなる方が多いです。新型コロナウイルスのパンデミックは、糖尿病のパンデミックにつながる可能性もあります。

糖尿病で治療中の方は現在の治療を中断しないでください。糖尿病の方が新型コロナウイルスに感染すると、重症の肺炎や血栓症を起こしやすくなります。新型コロナウイルスに感染するかしないかだけに目をうばわれるのではなく、万が一感染しても重症化しないように規則正しい生活習慣に気をつけることが非常に大切です。



柴田洋孝教授

大分大学医学部内分泌代謝・
膠原病・腎臓内科学講座 教授
附属病院血液浄化センター
センター長
大分県糖尿病臨床医会 会長
大分県糖尿病療養指導士認定
委員会 会長

略 歴

1988年 慶應義塾大学医学部卒業
1993年 同医学研究科博士課程（内科学）修了
1994～97年 ベイラー医科大学へ研究留学
帰国後、慶應義塾大学保健管理センター 助手・専任講師を経て
2010年 慶應義塾大学専任講師（医学部内科学）
2013年 大分大学医学部 内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学講座 教授
2019年 附属病院血液浄化センター センター長を兼任して現在に至る。